

日本書紀撰上千三百年記念祭典・講演を開催



本来なら令和2年5月21日に開催される予定だったが、コロナ禍の影響により12月24日に延期された

令和2年は日本最古の勅撰史書である日本書紀が養老4（720）年に成立してから1300年の節目にあたる。これを記念し、12月24日、本学において「日本書紀撰上千三百年記念祭典・講演」が開催された。

「敬」の姿勢に習う 本学の学問の進展を祈念

日本書紀撰上1300年を記念する祭典及び講演会が令和2年12月24日に開催され、清水潔本学学事顧問が「稽古照今——日本書紀の修撰——」と題し講演を行った。コロナ禍のため、聴講人数を制限して行われ、国史学や古典を学ぶ学生など約400名が聴講。熱心に耳を傾けた。

れ、秦昌弘神職養成部長の斎主のもと神職養成部職員と専攻科生が奉仕。祝詞では推古天皇に始まる修史事業を受けた天武天皇の思し召しによる日本書紀編纂の過程を振り返った。さらに日本書紀が本文とともに異伝を捨てずに記したのは「敬」の極みであり、その姿勢に習う本学の学問のさらなる進展を祈念した。参列者一同、神を敬い、皇室を尊ぶ日本の国柄を伝えていく決意を新たに、小串和夫理事長、河野訓学長、清水潔学事顧問らが玉串拝礼をした。

日本書紀尊重の興隆を願う

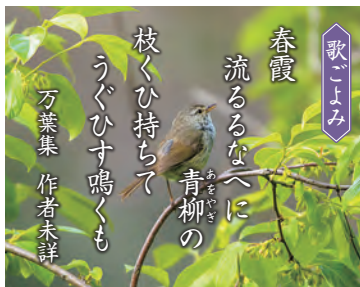
記念講演の演題は「稽古照今——日本書紀の修撰——」。はじめに清水学事顧問は昭和45年5月21日に本学で斎行された「日本書紀撰上千二百五十年祭記念講演」に触れ、4年生だった当時、平泉澄先生（当時、学事顧問）の格調高い講演を感銘深く拝聴したこと、また、70年安保闘争が全国的に繰り広げられ大学が荒廃していた中で、日本書紀撰上の大御業を敬い、感謝の思いでもって記念祭を挙行した大学は本学のみであったと述べられた。

続いて、日本書紀の本文30巻がひとつも欠けることなく伝えられたこと自体が極めて重要な意味を持つと強調。（序文）がないため推測にはなるが、我が国最初の歴史書を編纂した点において思いは同じであろうと、古事記の序文に「邦家の経緯、王化の鴻基ぞ。かれこれ、帝紀を撰録し旧辭を討覈して、偽を削り実を定めて、後葉に流へむ」と記された天武天皇のご意向を披露した。

また、朝廷において日本書紀が尊重され、日本



第86号
令和3年2月



■注目記事

- 2面 令和3年 学長年頭講話を開催 学内ギャラリーが好評
- 3面 アカデミック 高田高校と高大連携に関する協定締結
- 4面 カルチャー&スポーツ 東海学生駅伝 4連覇! 4年生が有終の美
- 5面 就職内定者ボイス
- 6面 中高トピックス 「行動」でいじめ反対のメッセージ 「ピンクシャツデー運動」に全校生徒が参加 新校友会本部役員が決まる ほか
- 7面 皇學館高校・中学校 卒業生随想
- 8面 アクティブスチューデント 市川桃子さん(国文3)が大学ビブリオバトル全国大会で優秀賞 第64回 日本学生科学賞で中野優子さん(高2)が入選1等 ほか

川瀬選手が日本選手権 5000mで4位入賞!

12月4日に大阪・ヤンマースタジアム長居で開催された第104回日本選手権において、本学駅伝競走部の川瀬翔矢選手（現日4）が男子5000mで4位に入賞。自己最高記録を更新する13分28秒70をマークし、三重県・東海学生新記録及び日本人学生歴代8位となる好記録を達成した。



（写真提供／EKIDEN NEWS）

厳しい標準記録を突破した選手しか出場できない日本最高峰の同大会。今回は東京五輪の代表選考会を兼ねており、いずれの種目も熾烈な戦いが繰り広げられた。5000mのレースは序盤からハイペースで進み、2000m過ぎには先頭集団が早くも7人（オープン参加3人を含む）に絞られる展開

に。川瀬選手もその集団に位置していたが、ラスト1周、わずかの差で表彰台を逃した。卒業後はHonda（ホンダ）に入り、競技を続けることが決まっている。「オリンピック出場をいちばん大きな目標としてやっていきたい」と語る川瀬選手。さらなる高みへ、羽ばたく姿を期待したい。



万全のコロナ対策のもと開催

る声については「難しいからといって軽んじたり否定する前に、自身の理解力や学力が足りないのではないかと自らを反省している」と田中卓先生が仰っておられた言葉を紹介し、「誠に尊い教えであった」と述べた。そして、戦後長らく記紀の内容に疑惑の目が注がれてきたが、埼玉県の新宿山古墳や出雲の荒神谷遺跡・加茂遺跡等、古伝の記述を実証する考古学的大発見が相次いだことで古代

史復権の兆しが見えてきたと喜びを語った。最後に清水学事顧問は建学の精神にある皇国の道義、皇国の文学の根底・根本は古事記、日本書紀にあると説明。記紀によって我々の根源、日本が日本たる所以、皇室の由来、国体の尊厳を知ることができるとし、稽古照今の根本的な経典こそ日本書紀であると熱く語られた。そして、「日本書紀の風潮が再び興隆することを願い、自らの学問の足らざることを恥じ入りながら、さらなる精進を誓う」と締めくくられた。この講演の模様は皇學館大学学生テレビ局のYouTubeチャンネルで公開中。清水学事顧問へのインタビュー及び荊木美行教授、遠藤慶太教授が日本書紀研究の最前線を語る番組も順次公開するので、ご期待いただきたい。



第104回 日本陸上競技選手権大会 兼 東京2020オリンピック競技 大会日本代表選考競技会 男子5000m	1位	坂 東 悠 汰（'96） 富士通	13分18秒.49 PB
	2位	松 枝 博 輝（'93） 富士通	13分24秒.78
	3位	吉 居 大 和（'02） 中央大学	13分25秒.87 PB
	4位	川 瀬 翔 矢（'98） 皇學館大学	13分28秒.70 PB
	5位	松 村 陣之助（'95） コモディイタ	13分34秒.53 PB
	6位	森 田 佳 祐（'95） 小森コーポレーション	13分34秒.57 PB
	7位	梶 原 有 高（'88） ひらまつ病院	13分35秒.24 PB
	8位	的 野 遼 大（'92） 三菱重工	13分35秒.63 PB
	OP	J．ソ ゲ ッ ト（'99） Honda	13分20秒.55
	OP	A．ク ル ガ ト（'92） 中電工	13分21秒.39
※PB＝パーソナルベスト ※吉居選手の記録は、U20日本記録 ※川瀬選手の記録は、東海学生新記録並びに三重県新記録	OP	B．キ メ リ（'95） 富士通	13分24秒.53

いわゆる新しい生活様式（ニューノーマル）によって、学内の昼食事情も大きく変わった▼学生達の昼食調達は、自宅からの弁当持参や登学途中での購入が大きな割合を占める。そんな中で、以前は学生食堂の補完的サービスであった学内のコンビニと構内での業者による販売弁当が今やトレンドである▼販売弁当は、専門店の定番商品はもちろん、鶏の唐揚げ、カレーといった若者好みのメニューで差別化を図ったり、価格で勝負したりと特色がある。学生達はそれぞれ自分のひいきがあったり、日替わりで各業者を回ったりしているようだ▼ところで、外出先で購入できる弁当と言えば駅弁だが、明治十八年に宇都宮駅で売られたおにぎり二個とたくあん二切れが入った竹包みの弁当が最初だとされる▼言葉として「駅弁」の初出は昭和五年の大野恵造の文章だというから、定着までに五十年近くを要したことになる▼平成以降は、空港で販売される空弁、高速道路のパーキングエリアで販売される速弁も登場した▼そうすると、令和に登場した学内弁当はさしずめ、学弁といったらところだろうか。



発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学
大学院 | 文学部 教育学部
専攻科 | 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

河原田良一氏(国史第5期)が 瑞宝単光章受章

令和2年11月に「第35回危険業務従事者叙勲」が発令され、公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、職務を果たした人に対して授与される勲章「瑞宝単光章」を、元大阪府警察本部警部補で本学国史学科(第5期)卒の河原田良一氏が受章した。



第60期 学友会が発足 「皇學館でよかったと思える 学生生活を実現したい」



第60期学友会が発足し、昨年に続き堀江翔太さんが総務委員長に就任した。今期の抱負について、「コロナ禍の中でもできることを見定め、学生の皆さんが皇學館大学でよかったと思える学生生活になるよう活動していきたい」と語る堀江さん。部員のモチベーション維持になればと企画した学内ギャラリー(本紙面の下部記事参照)は評判も上々だ。

また、次年度の新入生歓迎会の中止を受け、部活動紹介動画をロータリー前のデジタルサイネージで流すことなどを検討しているという。倉陵祭についても中止ではなく、別のアプローチで実施できる企画を立てたいと意気込みを語る。

第60期 学友会総務部

総務委員長	堀江翔太	神道2年
総務副委員長	河西一成	国史1年
会計委員	田中ゆ衣	教育1年
	田中多聞	神道3年
庶務委員	中桐優太	現日3年
	森啓悦	現日2年



感染対策を徹底した中で行われた年頭講話

1月14日、「日本古代に流行った疫病について―コロナ禍の中で―」との題目で河野訓学長による年頭講話が行われた。

河野学長は『日本書紀』にある疾病の記述について紹介。崇神天皇の御代に悪性の伝染病が蔓延したことや天平7(735)年・9(737)年に疱瘡が流行した時には政治の中樞を担っていた藤原4兄弟(武智麻呂・房前・宇合・麻呂。いずれも不比等の子)のほか多くの貴族、庶民が死亡(ある研究によれば人口の3割)したことなどが語られた。さらに、近世までは、疱瘡を患う者がいたら遠い野山に小屋を建てそこに送り捨て、全快して自ら帰ってくるまでは誰一人訪れもしないで置いておき、また



記念館で大祓式を斎行

コロナ禍を乗り越え、学内外に平穏が訪れることを願って、12月25日、記念館にて大祓式が斎行された。密を避けるため人数を制限して執り行われた式には、小串和夫理事長、河野訓学長をはじめ約60名の教職員が参列。ロータリーにて四方祓いを行った後、人形(ひとがた)に罪穢を移し式は終了した。

令和3年学長年頭講話を開催

「日本古代に流行った疫病について―コロナ禍の中で―」

1月14日、記念講堂にて本学の伝統である年頭講話が開催され、「日本古代に流行った疫病について―コロナ禍の中で―」と題し、河野訓学長が講演を行った。

は既に疱瘡にかかったことのある者を看病人として付け、医薬の手当てもないまま生死を天に任せる風習があったと解説した。

そして現在、新型コロナウイルス感染症患者に対して、医療従事者の方々が命を懸けて治療にあたってくださっているという力説。感染リスクと隣り合わせの中で尽力してくださっていることに感謝するとともに、私たち一人ひとりが感染しないよう、また感染を

拡げないよう、最大限の努力を必要があると訴えた。

柏崎梢さん(神道1)は「疫病が昔も流行っていて、今も同じ状況という箇所が印象に残った」と話し、「感染予防のため、手洗いやマスク着用など自分たちで防げることは防いでいきたい」と感想を述べた。「過去から学び、現代に生かせるようにしたい」と語るのは中桐優太さん(現日3)だ。ボランティア活動や実習を通して興味のあることがたくさん見つかり志望職種が絞り切れていないと話しつつ、健康で元気なことが充実した学生生活・就活につながるとして、手洗いや密を避ける行動を徹底したいと抱負を語った。



能楽同好会



奇術部

倉陵祭など発表の場が無くなり、この企画を聞いた時は素直に嬉しかった。発表の機会があると目標になり、レベルアップにもつながる。他の部員もみんな喜んでた。能楽同好会と合同で行ったため、奇術部を目的に来場した方以外にも見ていただけたよかった。

林 知哉さん(コミ3)



書道部



写真部

「学内ギャラリー」が好評



アンサンブル部

今年度は6件の公演依頼がすべてキャンセルとなった。演奏しても、聴き手がいなければ成り立たない。音を誰かに届けることの大切さを知った。屋外実施は初めての試みだったがとても楽しく、OB・OGの先輩にもよかったと反応をもらえた。コロナ禍でなくとも、このような場があれば参加したい。

田中翔英さん(現日3)



華道部

新型コロナウイルスの影響で倉陵祭をはじめ学内外の各種イベントが中止となり、成果を発表する機会が減っている。そこで、学友会が「学内ギャラリー」を企画。館内の一面に生け花や写真など多彩な作品が展示され、通る人の目を楽しませた。本コーナーではその一部を紹介する。



邦楽部



美術部

生物学・理科教育学ゼミが 合同で高校へ実験出前授業



高大連携事業の一環として教育学部生物学ゼミ・理科教育学ゼミ合同で皇學館高校にて出前授業を行っている。これまでは、大学主体で行ってきた出前授業だが、現場の先生と連携を図って授業の主体者となってもらい大学生が補助を行う新たな試みを行っている。扱う実験は「昆虫の血球による食作用」。新型コロナウイルス感染症の流行で免疫に対する関心が高まる中、体内に侵入したウイルスなどの異物を血球が排除するシステムを実際に観察する事は有用である。生徒からは「本当に異物を取り込んでいて感動した」「免疫の仕組みにとっても興味を持った」といった前向きな感想が多く寄せられた。今後もこうした新形態の出前授業を進め、新たな取り組みに挑戦していきたい。

「手品と図書館」をテーマに 岡村真衣さんが招待講演

9月12日、岡村真衣さん(国文4)が日本図書館研究会でオンラインによる招待講演を行った。題目は「手品と目録のあいだ—いくつか記憶からこぼれ落ちるとしても—」。岡村さんが2年生の頃から取り組んできたテーマ「手品と図書館」が同会担当者の目に留まり、講演が実現。学部生が招待講演者になったのは同会史上初だという。



現存する手品資料を網羅的に収集、記録、保存することによって体系的に見られるようにし、後世に伝えたいと講演で語った岡村さん。これらの活動を通して手品文化の発展、新たな価値の付与に寄与したいと熱弁をふるった。国文学科の岡野裕行准教授は「初めて学会に参加したとは思えない、とても素晴らしい発表だった」と称えた。

人と関わる経験や能力が重要 卒業生・就職先企業アンケートより

卒業後5年目の学部卒業生及び過去4年間で本学学生を2名以上採用いただいている企業を対象にアンケート調査を実施した。

これらのアンケートは、学生時代の教育に関する意識や職場などでのニーズについて調査し、教育改善と自己点検に反映させることを目的としている。

今回の調査では、卒業生・就職先ともに「時代の異なる人とのコミュニケーション」や「人間関係を構築する能力」といった人との関わりにおける経験や能力を重要視しているとの結果を得た。結果について分析を進め、自治体からも意見を頂戴し、カリキュラム改革などに活用していく。

集計結果の詳細は公式ホームページにて公開中。アンケートにご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。



Academic アカデミック

高田高校と高大連携に 関する協定締結

野を広げ、進路に関する意識や学習意欲を高め、かつ高校教育・

大学教育の活性化をめざす。令和2年12月11日に同校において行われた調印式で鷲尾尚史学校長は「日本古来の宗教を教育理念に持つ学校同士、連携協定を結ぶことに感謝。高校生



河野学長(左)と高田高校の鷲尾学校長

- 連携項目**
- 1 大学教員による高校への出張講義
 - 2 指定校推薦入試等に関する事項
 - 3 大学の各種公開講座への聴講生の受入れ
 - 4 双方の教育課程・教育内容・教育方法等に関する意見交換
 - 5 その他、双方が協議し同意した事項

が求める人材像や教育内容への理解が深まり、入学後の学修、学生生活がより一層充実したものになることを期待している」と述べた。河野訓学長は「三重県



左から兼岡氏、板東准教授、橋本教授、桐原氏

- ① 基調講演**
- 金城学院大学教授 桐原健真氏
好古と考古：水戸学の思想史的意味
- ② 研究報告**
- 橋本雅之
会沢正志斎「新論」と『訂正 常陸国風土記』序文 —底流としての水戸学—
 - 兼岡理恵
栗田寛の風土記研究
 - 板東洋介
水戸藩郡制改革と『常陸国風土記』研究
- ③ パネルディスカッション**
- 司会 ●中山郁
- パネラー ●桐原健真 橋本雅之
兼岡理恵 板東洋介

平成30年〜令和2年度の3年間、「水戸学における地誌の注釈と編纂をめぐる基礎的研究」基盤研究(C)と題して、橋本雅之(研究代表者)、板東洋介(研究分担者)、兼岡理恵(研究分担者、千葉大学)の3人で共同研究を実施した。最終年度にあたる令和2年11月14日(土)に、本学において研究成果に関するシンポジウムを、研究開発推進センター神道研究所の主催で実施したので、その報告をする。

シンポジウムは本学神道学科中山郁教授の司会で、左表の内容で進行的。基調講演をお願いした桐原健真氏は水戸学研究の第一人者であり、水戸学についての基本的な内容と課題について分かりやすく解説してくださった。続いて3人の共同研究者がそれぞれの研究報告を行い、最後に水戸学と地誌注釈に関する問題について、出席者からの質問も交えてパネルディスカッションを実施した。

シンポジウムの成果としては、これまであまり注目されてこなかった常陸国風土記の注釈と水戸学との関係について、基本的な共通認識が生まれたことが挙げられる。これは、今後の古風土記受容史研究のみならず、水戸学研究についても、新たな研究のフィールドを開くものとして重要であり、シンポジウムの開催は大きな意義があった。

現代日本社会学部教授 橋本雅之

外国語教育メディア学会(LET) 研究大会をオンライン開催

令和2年12月13日(日)に本学を実行委員会本部として外国語教育メディア学会中部支部第95回研究大会がZoom利用のオンライン形式で開催された。大会のテーマは「COVID-19禍においても学びを継続させるICT利活用」。

開会式では、大会実行委員長を務めたコミュニケーション学科の豊住誠教授が「本学は神道と日本の文学、歴史を基盤とした大学であるが、英語教員養成も含めた英語教育の充実も図っており、日本文化の英語での発信にも力を入れている」と挨拶。次に同学科のクリストファー・メイヨー教授が「Distance English」 in the Post-COVID-19 Era: Educational Opportunities and Challenges」と題して基調講演を行った。午後は研究発表に続き、遠隔授業の実践で成果を上げている全国的に著名な3名をパネリストに招き、「コロナ禍における授業実践：中学校・高等学校・大学の実例を基にアイデアを共有しませんか？」と題するシンポジウムで大会を締めくくった。大会全体を通して、オンラインによる英語教育のあり方について活発な議論が行われた。

教育学部 梶・土谷ゼミ生が Zoomで絵本の読み聞かせ

現在コロナ禍により、子どもと保護者の孤立や対面による保育実践の制限など、保育・子育て支援を行う上で厳しい状況が続いている。本学で毎年活動している「子育て支援活動びよびよ」についても、コロナの影響により令和2年度の開催を中止とした。

近年、学校教育だけでなく幼児教育・保育現場においてもICTの導入・活用が進められており、将来を担う保育者として、教育・保育・業務面でのICT活用能力は大きな強みとなる。そこで、梶ゼミ・土谷ゼミ所属の学生がリモートによる保育実践(大型絵本を使った読み聞かせなど)を子



リモートでの子育て支援という新たな試みが評判を呼んでいる

育て家庭や保育施設に向けて実施した。新たな試みであったが参加者からは大変好評をいただき、学生たちは実践経験から多くの学びを得た。人と人との距離をあけても、心の距離を近づけるような「繋がりが」を大切にしたい保育・子育て支援活動を今後も続けていきたい。

教育学部助手 中村真緒

Culture & Sports
カルチャー&スポーツ

4年生がラスト駅伝で有終の美！

東海学生駅伝大会

4連覇を達成！



出雲駅伝出場切符を後輩へ

昨年12月13日に開催された第82回東海学生駅伝対校選手権大会において本学駅伝競走部が3時間16分13秒で優勝。見事4連覇を達成し、今秋開催予定の2021出雲駅伝の出場権を獲得した。



アンカーとして笑顔でゴールテープを切る川瀬翔矢選手

連覇への期待とプレッシャーがかかった令和2年度の東海学生駅伝。本学駅伝競走部はその重圧を見事に跳ね除け、2位の愛工大を3分以上引き離す圧巻の走りで行った。5区間で区間賞に輝く快走で、7区間63.5キロを走破した。

レース前、愛工大との一騎打ちになると想定していた日比勝俊監督。選手たちにはミスや油断に付け入れられ、劣勢になる可能性も伝えてあったという。予想通り2区で愛工大に先行されるも、終わってみれば大差での勝利。日比監督は「4年生の起用が多かった今回、4区で逆転、4連続区間賞、4連覇と何かの縁か運をつかみ

取ってくれた」と顔をほころばせ、「コロナ禍で不安が多い中、出場させていただき、それに応えることができて良かった。学生には感謝したい」と話した。

4区を走った主将の平山寛人選手(教育4)は「逆転できたのは1・2・3区がしつかり走り、5・6・7区が守ってくれたから。みんなの力で成し得た優勝だと思う。ラスト駅伝をみんなと走れて、後輩に出雲の出場権を渡すこともでき、本当に嬉しい」と喜びを語った。5区の佐藤楓馬選手(現日1)は「平山さんがケガでつらい状況でも主将としてチームのことを考えてくれる姿を見て、頑張ろうと励みになった。主将と襷をつなげたことは選手というより、後輩として嬉しかった。大きい存在だった4年生から学んだことを発信し、チームを引っ張る存在になれるよう精進したい」と胸の内を語った。

先輩から後輩へ、さまざまな想いを重ねた「心の襷」もしつかりとつながっているようだ。

第82回 東海学生駅伝対校選手権 大会結果

順位	大学名	記録
1位	皇學館大学	3時間16分13秒
2位	愛知工業大学	3時間19分50秒
3位	岐阜協立大学	3時間20分57秒
4位	名古屋大学	3時間21分57秒
5位	中京大学	3時間25分28秒
6位	愛知大学	3時間27分47秒
7位	静岡大学	3時間28分10秒
8位	東海学園大学	3時間29分02秒

各区間の記録

区間・距離	氏名(学科・学年)	記録	区間順位
1区 8.5km	桑山楓矢(現日4)	25分53秒	区間賞
2区 10.6km	上村直也(教育4)	32分04秒	3位
3区 8.1km	竹内啓一郎(国史2)	25分00秒	2位
4区 8.3km	平山寛人(教育4)	26分25秒	区間賞
5区 10.3km	佐藤楓馬(現日1)	33分08秒	区間賞
6区 5.4km	宮城響(教育4)	16分44秒	区間賞
7区 12.3km	川瀬翔矢(現日4)	36分59秒	区間賞

高・大硬式野球部共用施設 雨天練習場が完成！



皇學館高校グラウンド内に高校・大学硬式野球部が使用できる雨天練習場が完成した。鉄筋コンクリート造で延床面積は408.82㎡。高校硬式野球部の井出宏監督は「この練習場のおかげで雨天でも練習できる場所が確保できた。バッティング、守備、走り込みなどの練習も可能になった」と語り、キャプテンの小林一翔さん(2年3組)は「この施設を使ってみて、多くの人に支えられていることが実感できた。感謝の気持ちでいっぱい」と喜びを語った。高校・大学硬式野球部のさらなる活躍に期待したい。

鈴木健一伊勢市長が オンデマンド授業 令和2年度 伊勢志摩共生学



令和3年1月21日、伊勢市の鈴木健一市長が「伊勢志摩共生学 ～これからの伊勢～」と題しオンデマンド授業を行った。講演では「笑子化・幸齢化」をスローガンに、ICT教育の推進や健康づくりに向けた事業、安心・安全な観光地づくり等、さまざまな取り組みが行われていることが紹介された。また、全国で初めてクリエイター対象のワーケーション促進事業が展開され、演出家の宮本亜門さんや歌手の相川七瀬さんなど第一線で活躍するアーティストが参加したことなどが語られた。さらに、8市町と本学がコラボし注目を集めた「広報いせ特集記事制作プロジェクト」などCLL活動に対する大きな期待を語り、学生の力がまちを元気にするきっかけになるとして引き続き協力を呼び掛けた。

CLL活動で伊勢市バリアフリー 観光マップを制作



東京オリパラに向け伊勢市は「共生社会ホストタウン」となっており、ラオス人民民主共和国のパラリンピック陸上選手の受入れや「バリアフリー観光の推進」事業に取り組んでいる。同事業にCLL活動として本学学生が参画。7月に内宮、8月に外宮周辺のまち歩き&ワークショップを行い、集めたバリアフリー情報が満載の観光マップを作成した。12月26日に行われた「伊勢市バリアフリー観光マップ完成報告会」では完成に至る経緯が語られたほか、紙ベースのマップに代わる案内ツールとして注目を集めているウェブカメラによる遠隔支援システム等が紹介された。後半にはラオスのパラ陸上チームとオンラインでつながり、ラオスの紹介や令和元年に伊勢市に来日した時の様子が伝えられた。なお、今回作成されたバリアフリーマップは2月以降、伊勢市内5カ所の観光案内所などで配付される予定だ。

書道部員が自分たちで表装

書道部が「潜志展」を開催

12月4日から7日まで本学書道部の作品展「潜志展」がシンフォニアテックノロジー響ホール伊勢で開催された。展示されたのは「読売展」出品を目指し制作していた二八(寸法約61×24.2センチ)と呼ばれる大作を中心に部員の力作46点、「潜志展」と名付けていただいた中京大学名誉教授・樽本樹郎先生らの特別出品作、顧問の上小倉一志(積山)教授らの賛助出品作を加えた計51点。コロナ禍で大学祭や多くの公募展が中止となった今年度、部員にとっては初めての作品発表の場となった。また、学生作品の表装はすべて彼らの手作業によるもの。プロの表具屋から仕方を習った小掠雄大さん(国文2)が中心となり、軸装など材料もすべてホームセンターなどで調達。特に慎重を要する裏打ちの作業は練習して技術を磨き、滲み止めスプレーを使う

など改良と工夫を加え、機械等には使わずすべて自分たちで作業を行った。部員のひとりには、「心が落ち着かない時も、無心になれる」と書道の魅力を語った。



表装作業をする小掠さん

大学・柔道部 お茶のリズムであそぶ 動画コンテストで特別賞

本学柔道部がお茶のリズムであそぶ動画コンテストで特別賞を受賞した。このコンテストは「お茶」をテーマにしたあそびで元気になろうとNHKエデュケーショナルが企画した「お茶 de あそいく」プロジェクトの一環。柔道部員たちが「まっ茶♪ むぎ茶♪ ほうじ茶♪ 緑茶♪」と楽しいリズムに合わせて真面目に稽古する姿に、創作あそび作家のたにぞうさんは「お茶のリズムを本格的にスポーツに活用した内容は、『お茶 de あそいく』がめざすスポーツ界の姿を先取りしてくれた」と絶賛。本来は、無い「特別賞」が急遽用意されたこともわかった。なお、同コンテスト第



2弾に佐藤武尊部長のゼミ生(コーチング学研究室)が応募し、「伊藤園賞」を受賞している。コロナ禍でも楽しむ気持ちを忘れず様々なことに挑戦する学生たち。これからも注目していきたい。

柔道部受賞動画作品はこちらをご覧ください。



副賞はペットボトル120本!

内定者ボイス

コロナ禍の中でもくじけず、教職、公務員の内定を獲得した先輩たちの声を紹介します。

- ①「コロナ禍で苦労したこと」 ②成功の秘訣・工夫 ③後輩へのアドバイス

教職編

新家萌愛(国文)

【内定先】中学校・国語科 (三重県)



題傾向をつかみ対策を立てること。ボランティアや教育アシスタントは1・2年生から始めた方が面接等の引き出しが増える。

河村優希(国史)

【内定先】中学校・社会科 (三重県)



①教育実習の延期や集団面接の中止などあらゆることにおいて前例がなく、先が見通せないことに不安を覚えた。②オンライン上で面接練習をしたり、ボランティアや模擬授業の練習会に積極的に参加して経験不足を補った。③やみくもに勉強するよりも受験する自治体の出

①4・5月と授業がオンラインになり、仲間と取り組んでいた勉強に一人で向き合ねばならず、

高山大雅(教育)

【内定先】小学校(三重県)



モチベーションの維持が難しかった。②友人とオンライン上で励まし合ったりして気持ちを切り替えずに勉強を継続した。③先を見据え春頃から二次試験の面接対策をすべき。マイナス思考にならないように自分ならできると常に前向きに考えること。同じ目標を持つ仲間と努力できる環境を作れたら互いに高め合える。

天野ほのか(教育)

【内定先】公立保育園 (三重県松阪市)



①受験方法や試験の形式、内容が昨年度から大きく変わったため、対策が大変だった。

公務員編

吉川雄貴(教育)

【内定先】文部科学省



①採用試験の日程が大幅に延期され、時間的な余裕ができた一方、モチベーションの維持に苦労した。②教員志望の友人と勉強し、「自分も頑張らなくては！」と思える環境に身を置いた。リフレッシュ休暇をしっかりと取りメリハリをつけた。

た。自宅外での勉強のペースが減り、勉強が進まなかった。②他県のハローワーク等にも恥ずかしがらず相談するなど、とにかくいろいろな人を頼り、サポートしてもらった。勉強はルーティンを決め、1日も欠かさずやり遂げた。③「絶対になる」という強い気持ちを持つ。

①面接の練習が思うよう

にできなかった。コロナ

による学校現場の変化や国の政策を把握しておく必要があった。②数少ない面接練習の機会に話し方や表現などを丁寧に直していただき、面接で話す内容を深めていった。ニュースや新聞、資料を読み込み、感染予防のための行動について自主的に学習した。③勉強は1年前くらいから始めておく。自らの理想とする教師像を明確にしておく

古市桃香(教育)

【内定先】四日市市役所



①対面での集団討論や面接の練習ができなくなっ



【内定先】滋賀県警察本部

①春の第1回の採用試験が中止になった県警もあ

ったこと。②自分だけでなくみんな同じ条件と考

え、なるべく前向きにと

らえた。就職支援室には履歴書作成や面接対策でサポートしていただき、精神的にも支えられた。

③情報収集・準備をしておくことで心の余裕が生まれる。

小学校教員として羽ばたけ！

学生主体の勉強会「つばさ」立ち上げ



内定者報告会に先立ち「つばさ」の発足が発表された

小学校教員を志す学生が主体となつて教員採用試験突破をめざす勉強会「つばさ」が発足した。11月25日、記念講堂にて開催された発足式には約160名が参加。同会の会長を務める河野訓学長は「倉志会」は立ち上げから2年で順調に成果を上げつつある。「つばさ」においても教員になりたい学生一人ひとりの夢の実現に向けて総力でサポートする体制を整え、志ある学生に最善の環境を与えたい。皆さんの頑張りを期待しています」と挨拶した。

過去3年、教員採用試験において皇學館生は一次試験で65〜74%の合格率である一方、二次試験は35〜57%(※一次試験合格者に対する合格率)となっている。そこで、「つばさ」では二次試験の対策に重点を置き、集団討論練習や場面対応、模擬授業、教員を交えてのディスカッションなど場数を増やして度胸を養い、(話す力)の育成を図る。学生リーダーの原田あいかさん(教育3)は「同じ夢を持つ仲間と切磋琢磨し、高め合う場を作っていきたい」と意気込みを話した。

神社実習報告

無心ではなく、考えて行動

奈良県・大神神社

神道学科2年 植木 美帆



高校3年のとき皇學館大学の先生から「神道は日本人の感性そのもの。千年以上受け継がれてきた素晴らしいもの」との言葉を受け、私もそれを伝えていく一人になりたいと思い、神職を志すようになりました。

実習では「伝統は継承しなければならぬ」との言葉が胸に残りました。また、今まで効率よく作業することが苦手でしたが、実習を通して、先の状況を考え素早く丁寧に作業することがとても大事だと感じました。「お守りの授与は笑顔で懇切丁寧に、祭事に関わる際は厳かに」との教えを忘れず、これからも気を引き締めて取り組んでいきたいと思っています。

人と人とを繋ぐナカトリモチとして

奈良県・大神神社

神道学科2年 松 永 渉



年末は正月の準備、年始は授与所などで参拝者に対応しました。また、玉串拝礼など大学で基本の作法を学んだおかげで自信を持つて行うことができました。その自信が心の余裕を生み、神職の方と話をさせていただく機会に繋がったのだと思います。

私の考える現代の神職とはご奉仕している神社を守り存続に力を尽くすだけでなく、神社について広く知ってもらう役割も担っていると思います。昔から神職は神様と人間との仲を取り持つ「ナカトリモチ」とされていますが、横のつながりが薄くなってきている今、人と人とを繋ぐ「ナカトリモチ」でも在りたいと思います。

「行動」でいじめ反対のメッセージ 「ピンクシャツデー運動」に全校生徒が参加

「いじめ反対」の意思を目に見える形で示そうと、昨年11月17日から30日にかけて「ピンクシャツデー運動」が高校・中学校において展開され、校友会役員が作成したピンクのリボンを全校生徒・教職員が身に付け、いじめに対する意識を高め、いじめを生まない環境づくりに取り組んだ。

ピンクシャツデーとは平成19年にカナダで起こった「いじめ反対運動」のこと。中学3年の男子生徒がピンク色のポロシャツを着て登校したことでいじめられる。それを知った上級生の男子2人がその日のうちに75枚のピンクシャツなどを買い、一緒に学校で着ようとメールや掲示板で友人・知人に呼びかけたところ、想定を遙かに超える数百人の生徒がピンク色の服や小物を身に付けて登校し、学校中がピンクに染まりいじめがなくなった。以来、毎年2月最終水曜が学校や職場にピンク色の衣類を身に付けて行くピンクシャツデーとしてカナダ全土に定着し、アメリカ・イギリスなど世界各地に広まった。そして現在この運動は「いじめ反対」のメッセージを行動で示すと同時に、いじめを個人や当事者間ではなくみんなの問題と捉え、いじめの定義や現状、及ぼす影響などいじめに関するさまざまな課題・問題について考える機会となっている。



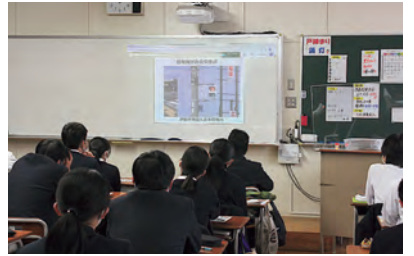
ピンクリボンを胸に付ける校友会役員

中高合同

高校

交通安全講習会・薬物乱用防止講演を オンライン開催

本校は令和2年度自転車安全利用モデル校に指定されたことを受け、グラウンドで開催する予定だった交通安全講習会を新型コロナウイルス感染拡大防止のため12月9日にGoogle meetを使った講習会に変更して実施した。伊勢警察署交通課の署員の方から自転車に関わる交通事故の現状や安全な乗り方のほか、危険な運転、法律上の注意事項、自転車の保険などについて詳しく説明していただいた。また伊勢署管内で事故の起こりやすい場所や自転車横断帯の利用方法など身近な所で気をつける点も教えていただいた。



伊勢市神田久志本町内の事例を紹介



オンラインでの薬物乱用防止教室

同月11日には1学期末に実施予定だった薬物乱用防止講演をオンラインで開催。前半は伊勢警察署生活安全課少年サポートセンターの方より薬物の種類、薬物に接触するきっかけ、薬物の人体に与える影響、危険性について話していただき、薬物乱用防止についての動画を視聴した。後半は薬物の販売が資金源となっている暴力団の現状について、三重県警察本部暴力団担当係の方から話をしていただいた。

お互いを思いやる世界に

全学年で人権学習

12月14日の5・6限目に全学年で人権学習を行った。

1年生は「友人のいいところさがし」。友人が書いた5つほどの長所をパワーポイントで表示し、「この友人はだれだ？」クイズをした。また、挙げられたそれぞれの長所を冊子にまとめ配布したところ、嬉しそうに読む生徒がたくさんいた。ちなみに副担任にも冊子が手渡され、生徒たちと同様に笑顔になっていた。温かい雰囲気の中での人権学習となった。この学習を通じ、友人を大切にすること＝自分自身も大切にすることだと学んだように思う。



1Aでの「いいところさがし」

2年生は今も残ってしまっている部落差別や、ネットでおきている差別問題について具体的に学習した。被差別部落の歴史を学び、正しい知識を身につけることで差別や偏見を見抜き、それを許さない態度と指摘できる実践力がついたと思う。



マララさんのスピーチに学ぶ(3A)

3年生はマララ・ユスフザイさんの国連スピーチなどから、子どもや女性の教育を受ける権利が今なお奪われている現状を理解した。その中で、このような不条理をなくすためにとったマララさんの行動が、いかに勇気のいる行為だったのか感じ取ることができたと思う。

世の中には依然として差別や偏見に満ちた発言やいじめが残念ながら見受けられる。そのような場面に接したとき、勇気を持って「それはちがうよ」「それはいいじめだよ」と指摘できるようになってほしい。将来、友人を今以上に大切に、思いやりを持つことのできる世界の実現に向け、この人権学習が一助となることを願う。

人権教育部・1年生副担任 小林 晃

新・校友会本部役員が決まる

令和2年12月21日、校友会本部役員選挙で当選した新メンバー5名の任命式が執り行われた。昨年度書記を務め、唯一の2年生として今年度の総務委員長に就任した山中美瑞依さんは「1年生のメンバーにとって気軽に相談できる存在になりたい」と話し、「昨年度の校友会活動で目標を習慣づける〈Knis運動〉に関わった経験を基に、この学校をより良くするための目標と皇學館生として何を習慣づけておかなければいけないのかを考え、リーダーとして最後まで責任を持って役目を果たしていきたい」と意気込みを語った。



左から川本こまち(会計)、長沢成起(総務副委員長)、山中美瑞依(総務委員長)、福原梨理衣(総務副委員長)、清水杷菜(書記)

地場産業を五感で堪能

2年生が尾鷲・熊野で宿泊研修

令和2年11月19・20日、2年生が尾鷲・熊野へ宿泊研修に赴いた。「総合的な学習」の時間で地場産業について学びを進めている中、現地で農林水産業に携わる方々から直接講話を聞く機会を得たからこそ、インターネットではわからなかった苦労や醍醐味に触れることができた。また、干物づくりや尾鷲絵を使ったオリジナルの箸づくり、みかんの収穫など実地体験をすることにより、事前の調べ学習で知り得た以上のものを五感で堪能し、より一層、尾鷲・熊野の魅力を実感できた。尾鷲神社や花窟神社では宮司さまから神社の成り立ちや御祭神について大変貴重なお話を伺うことができ、神社に対する関心が高まった。生徒たちにとって世界に誇れる三重県について学ぶとともに、グローバル社会を生きる上で必要な自国文化への理解を深められた素晴らしい研修となった。

2年生主任 田中孝昌



神職さんの話を熱心に聞く生徒たち



初めての収穫体験にときどき...

何事も怖がらずやってみる 2A 小林 柚梨彩

研修前は「ただの田舎」と思っていた尾鷲・熊野は、実際に行ってみると「自然豊かな美しい田舎」でした。体験したサンマ寿司づくりや干物づくり、人々への挨拶など初めは不安で怖かったことも、やってみるとすごく楽しかったです。先生が事前におっしゃっていた「研修の行先には必ず意味がある」との言葉がとてもよく分かった研修でした。

現地へ行くことの大切さ 2B 金森 星明

尾鷲・熊野にはたくさんの名所や世界遺産があり、とても神秘的で感動しました。SDGsとからめた学習だったためどの体験もしっかり考える機会になったこと、また、事前学習で調べた情報以上に知ることができ、現地へ行くことの大切さもわかりました。今回学んだ尾鷲・熊野の歴史や課題をもとに、来年の修学旅行が今年以上にによりよい研修となるよう活用していきたいです。

中学校

アクティブ スチューデント
Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

市川桃子^(国文3)さんが
ビブリオバトル全国大会で優秀賞を獲得!

本学国文学科3年の市川桃子さんが昨年12月19日・20日に開催された「大学ビブリオバトル・オンライン大会2020」に出場し、見事優秀賞を獲得した。

市川さんは赤瀬川原平著『新解さんの謎』を紹介して予選、準決勝を勝ち抜き、ファイナリスト5人のうちのひとりとして決勝の舞台に登場。平成24年から全国大会に毎年出場している本学としても、決勝戦まで駒を進めたのは初の快挙だ。残念ながらチャンプ本とはならなかったものの、優秀賞に輝いた。

なお、「全国大学ビブリオバトル2020」は京都大学にて実施される予定だったが、コロナウイルス感染症の影響によって中止となり、今回のオンライン(Zoomウェビナー及びYouTubeライブ)による代替開催となった。決勝戦の様子は以下のURLより、当日の動画アーカイブが視聴できる。
【決勝戦の様子(1:12:42〜)】<https://youtu.be/v2388mHaA40?t=4362>



釜谷太貴^(教育4)さんが
おもてなしを競う大会に3年連続出場

「おもてなしもおいしさのうち」としてすぎ家がスタッフの接客やサービススキル向上のため毎年開催している「KOSS-1 グランプリ」。同大会のバック(盛り付け)部門に、釜谷太貴さん(教育4)が中京支社代表として3年連続で出場を果たした。

大学1年生の時にアルバイトを始めた釜谷さん。同大会には2年生から出場しており、昨年は全国5位に輝いている。「ただのバイトで終わらせず、何か結果を残したかった」と釜谷さん。上位をめざす中で、盛り付け時の姿勢や声のトーンなど隅々にまで気を配るようになったという。また、様々な方から指導を受けコミュニケーション力も磨かれたと話す。「高みに挑戦する機会があるなら積極的にチャレンジを。人とのつながり、見える世界がきっと変わります」と実感を込めて語った。



卒業後は東京消防庁で働く

第64回日本学生科学賞で
中野優子^(高2)さんが入選1等

全国の中学校・高校から研究作品が集まる日本最高峰の科学コンクール「日本学生科学賞」において、中野優子さん(2年8組)の研究「フジノハナガイの生活史を探索Ⅱ」が入選1等に選ばれた。

中学生の時、フジノハナガイの繁殖戦略に関する研究で同コンクール内閣総理大臣賞を受賞し、一昨年、日本代表として世界最大の国際学生科学技術フェアに派遣された中野さん。今回の研究では準絶滅危惧種でもあるフジノハナガイの生息環境や繁殖特性の解明をさらに進めることで、養浜や干潟再生等、環境保全策を講じる上での基礎資料となるようテーマを設定。貝殻に形成される成長線の観察などを通して成長スピードや生息場所を突き止めた。「研究はすぐに結果が出るとは限らない。地道にコツコツと続けることが大切」と中野さん。また、環境問題についても、英虞湾でアコヤガイの大量死が確認されるなど身近に起こっているニュースに興味を持ち、関心を高めてほしいと話した。



第29回国際高校生選抜書道展で
石谷実佐^(高1)さん、森真奈香^(高2)さん、
岡野瑠佳^(高3)さんが入選

“書の甲子園”として国内外から1万2000点を超える作品が揃う「第29回国際高校生選抜書道展」において、石谷実佐さん(1年8組)、森真奈香さん(2年9組)、岡野瑠佳さん(3年9組)が見事入選を果たした。

楷書の基本である九成宮醴泉銘の臨書に挑戦した石谷さんは「ご指導いただいた先生方に感謝の気持ちでいっぱい」と語り、「落款を押した時には今までにない達成感を味わった。これからも大好きな書道を頑張っていきたい」と話した。空海が最澄に宛てた3通の手紙「風信帖」を書き上げた森さんは「まったく実感が湧かない」と言い、「この入選を糧に、日々練習から手を抜かず、自分の字に向き合い作品制作に生かしていきたい」と力強く語った。岡野さんは「完成した時は3年間の集大成となる作品になったと思った」と話し、「最後にこのような素晴らしい展覧会で入選させていただき、とても嬉しい」と喜びを語った。



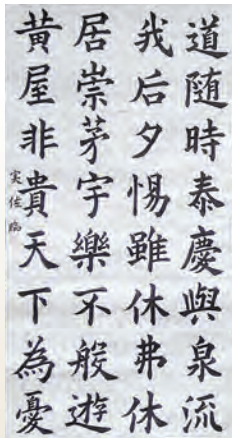
石谷実佐さん



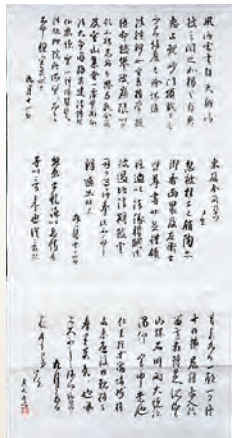
森 真奈香さん



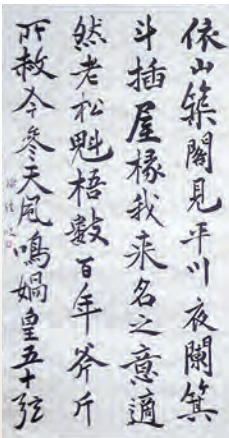
岡野瑠佳さん



欧陽詢「九成宮醴泉銘」臨書



空海「風信帖」臨書



黄庭堅「松風閣詩卷」臨書

井村優月^(中3)さんが
人権作文コンクールで市長賞受賞

伊勢市の人権作文コンクールにおいて井村優月さん(3年B組)が最高賞である市長賞を受賞し、12月12日、伊勢市生涯学習センターで行われた伊勢市人権講演会で朗読した。

手話通訳の仕事をしているお母さんの影響で小学4年の頃から手話を勉強し始めた井村さん。「手話を学んで考えたこと」と題した作文では手話講座の先生から聞いた話にショックを受けた経験が綴られる。「(中略)お子さんの学級懇談会で耳の聞こえないお母さんは順番を飛ばされ、さらに順番に当たるはずのPTA役員も飛ばされたそうです。その行為について井村さんは『『気配り』や『優しさ』だとは思いません。そのお母さんはみんなと同じように活動に参加できないからです』と理由を述べつつ、次のように問いかける。「私たちが『気配り』や『優しさ』と思ってやっていることが、知らず知らずのうちに人権を奪っているのかもしれない」。そして、伊勢市で平成28年に制定された手話言語条例について「条例ができただけではみんなの意識は変わらない」と訴え、「私自身これからも手話を学び続けることで、みんなの人権を守るためにはどう動けばいいのか考え続けていきたい」と結んだ。

